

建築学科			建築史				
学年	第4学年	担当教員名	依田 有康				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		建築の歴史の変遷の大きな流れを正しく理解し、各時代の代表的建築の特徴や歴史的背景について学ぶ。建築技術者として必要とされる常識を養い、その上に立って自らの進路を開くために考える基礎とし、現代の建築的状況を正しく理解する視点を学ぶ。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標	a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		建築史上の最も代表的な建築例、特にその遺構について、時代的・地域背景と共に理解することが大切である。西洋建築史、日本建築史とも歴史と地理に関する知識が必要になる。					
到達目標		建築史上の最も代表的な建築例、特にその遺構について、時代的・地域的背景と共に理解することができ、2級建築士試験以上のレベルに対応することができる。					
成績評価方法		4回の定期試験の結果の平均が60点を超過していること。 最終評価は、4回の定期試験の結果の平均(90%)と授業への取り組み姿勢(10%)の合計とする。					
テキスト・参考書		教科書:建築史「市ヶ谷出版」 参考書:建築史図集(日本・西洋・近代)「日本建築学会編」、 図説日本建築年表「彰国社」、図説西洋建築史「彰国社」、図説近代建築の系譜「彰国社」など					
メッセージ		配布プリントは、きちんと保存しておくこと					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.日本建築史 1-1 各種建築様式の変遷(1回) 1-2 神社建築の成立(1回) 1-3 飛鳥・奈良時代の仏寺建築(3回) 1-4 平安時代の仏寺建築(1回) 1-5 中世の仏寺建築(1回)			各種建築(神社・寺院・住宅)の様式の変遷について理解できる。 神殿の形式と特徴について理解できる。 伽藍配置について理解できる。 仏寺の構造と意匠について理解できる。 密教の伝来と密教建築、浄土信仰と阿弥陀堂建築について理解できる。 大仏様、禅宗様、和様と折衷様について理解できる。				
前期中間試験			実施する				
1-6 古代の住宅建築(2回) 1-7 中世の住宅建築(2回) 1-8 近世の住宅建築(1回) 1-9 茶室建築(1回) 1-10 民家建築(2回)			寝殿造りの形式、寝殿の生活と家族構成について理解できる。 古代から中世にかけての住宅平面の発展について理解できる。 座敷飾りの発生と書院造りについて理解できる。 茶室の構成について理解できる。 町家造りと地方色のある民家(農家)について理解できる。				
前期期末試験			実施する				
2.西洋建築史 2-1 西洋古代の様式建築(4回) 2-2 西洋中世の様式建築(2回) 2-3 西洋近世の様式建築(1回)			・エジプト・ギリシア・ローマの代表的建築について、建てられた時代背景を結びつけて理解できる。 ・ビザンチン・ロマネスク・ゴシック各様式の聖堂建築の意匠と構造について理解できる。 ・ルネサンス・バロック各様式の聖堂・宮殿建築の意匠について理解できる。				
後期中間試験			実施する				
3.近代建築史 3-1 各地の近代建築運動(4回) 3-2 現代建築について(2回) 3-3 様式建築と日本(1回) 3-4 文化遺産制度の意義と役割(1回)			・産業革命を境に多種多様な様式が生まれ、時代とともに変遷してゆく過程を具体例を上げ説明できる。 ・日本における様式建築が幕末から明治・大正にかけて学習、習得されていく過程を具体例をあげながら説明できる。 ・日本国内の様式建築、現代建築について理解できる。 ・文化遺産の指定制度が果たす役割を理解できる。				
後期期末試験			実施する				